

福岡市都市景観賞受賞作品



福岡市都市景観賞審査委員会委員

(50音順、敬称略)

岡本 均
西日本短期大学教授

落合 太郎
九州産業大学教授

鹿野 至
都市整備局長

菊地 成朋
九州大学教授

委員長 **佐藤 優**
九州大学芸術工学研究院教授

中村 敏子
九州朝日放送(株)社長室広報部担当部長

永崎 明子
九州造形短期大学教授

西山 徳明
九州大学芸術工学研究院教授

三浦 佳世
九州大学大学院教授

表彰の種類

一般表彰

福岡市内にある次のようなもので、福岡の個性的、魅力的な景観づくりに役立っているもの、及び周辺環境やまちなみと調和し、その雰囲気を高めているもの。

- 戸建住宅、集合住宅、店舗、商業ビル、ホテル、学校、病院などの建物
- 住宅団地、商店街、通り、遊歩道、広場、公園、オープンスペースなどのまちなみ、空間など
- 塔、橋、モニュメント、広告、サイン、ストリートファニチャー、塀など

特別表彰

地域の魅力を高めている次のような企画や活動

- すぐれた都市空間の創造・演出につながる企画や活動
- 都市景観形成に関する知識の普及や意識の高揚につながる企画や活動
- 自然景観、歴史的・伝統的景観の保全・創造に貢献している企画や活動

大小の建築や新旧の街並み、彫刻や公園など、市民から推薦された物件が審査会場にびっしりと並び、全国一の推薦数を誇る福岡市都市景観賞の迫力をひしひしと感じる。審査委員が写真と推薦文を丹念に見ていく。こんなところにこんなものがあつたかと新鮮な発見をすることも少なくない。写真はどれもが魅力的に見える。

第一次審査で現地視察の対象を選ぶ。約1/20の最初の関門である。評価ポイントについて激論が交わされる。様々な分野の審査委員の解説に感心したり、お互いに譲らないこともある。高い評価と強い支持を得た対象について、現地で確認してみようということになる。

二次審査では、選ばれた約20件を丸1日かけて現地で確認する。市役所に帰ってきて夕方から最終選考と厳しいスケジュールである。最大8件を選考する。公共に対してはやや厳しいかもしれないが、すべてを平等に公平に審査することが福岡市都市景観賞の伝統である。相互の印象を確認して採点、ディスカッションをして再度投票と、なかなか中にも緊張感の漂う審査風景である。

さて、今年の特徴は、例年になく幅広い対象が推薦されていた。市民ひとりひとりの愛着を想像させるものが多かった。小型の秀逸な作品が目立ち、また、年月を染み込ませた建造物や街並みも各地から推薦されてきた。

(審査委員長 佐藤 優)



今年を受賞対象は、学生と地域の芸術活動の拠点となる「九州産業大学美術館」、小粋なレストラン「サーラ・カリナ福岡」、上品な街角をつくりだしている「片山撰三写真場」、地域の老若男女が買い物に集まる貴重な空間「美野島商店街」、明治時代からの旧家をうまく継承している「伊佐君子邸」、美しく管理されている「友泉亭公園」など、どれも福岡を愛する拠り所となっている。

これらを並べてわかることは、景観賞が従来の街にとつてのシンボリックな対象であった頃と大きく変わり、地域や人々の心に訴え愛されているものを評価していることである。景観賞は成熟期を迎えている。残念ながら選外となつたいくつかの対象は、景観賞に相当しないからではなく、まだ設計者の作品であるというだけで心がこもっていないと判断した。景観は人が介在して完成形となる。使う人や地域の人々との心が通い合うことを待ちたい。

特別表彰は福岡らしい2件、「船乗り込み」と「イムス吹き抜け空間のアート展示」に決まった。景観エッセーもいつも楽しみにしている。石井さん、澤井さん、杉本さん、タケウマさん、いずれも情景が目につかぶすぐれた作品だった。

この難関の中を受賞された皆様に心より敬意を表したい。